

あこがれの大地、北海道に来て

徐さんは、绥化市の政策研究室で、主に市長の公式あいさつ文を書いたり、スケジュール調整を行うなど、日本で言えば、市長秘書のような仕事をしています。

绥化市は、中国東北部に位置する黒龍江省の中堅都市で、人口は約570万人。主な産業は、豊かな黒土に恵まれた農業で、野菜は味が良く、人気も高いことから、北京オリンピックにも出場する各国の選手たちの食材にも使われています。近年は、東アジア一の生産高を誇るアルコール工場もあり、一層の発展を目指しています。

徐さんは、日本の来訪はもちろん、外国旅行も初めてで、その点について伺うと、「日本にあこがれて、大学では日本語を1年専攻しましたが、まだ話すことも書くことも自信がありませんでした。昨年登別市で研修をした関穎さんに研修の様子を聞くと、登別はとても良いところなので、ぜひ頑張ってきてほしいと励まされ、大変勇気付けられました」と話してくれました。

日本の良いところを学び、绥化市の発展に尽くしたい

徐さんによれば、「绥化市は日



本では新潟市と交流を重ねていますが、これからも多くの都市との友好を望んでいる」とのことです。また、「北海道登別市という全国でも有数の温泉観光地で、さまざまな人と出会い、多くの交流をとおして、日本の良いところを学び、登別市との交流も深めていきたいと思っています」と研修に対する意気込みを話してくれました。

徐さんからのメッセージ

日本を知るきっかけとなったのは、実はアニメです。ドラえもんは『机器猫』といい、情感あふれる物語は今も中国の子どもたちに大人気です。美しい北海道の景色や、心まで温まる温泉に浸かり、多くの朋友を得て帰りたいと思っています。

皆さんとの『一期一会』を心から楽しみにしています、多謝。



KIRARI

シュ 徐
ピン レイ 冰磊さん (スィファ 绥化市)

市は、国際交流事業の一環として、総務省などが行う自治体職員協力交流事業の協力交流研修員を受け入れています。

協力交流研修員として、登別市の一般行政や観光行政などを学ぶため、中華人民共和国の绥化市から5月18日に来日、6月24日から登別市での研修を始めた徐冰磊さんに登別市の印象などをお聞きしました。

研修を通じ、绥化市の発展に尽くしていきたい



1982年绥化市生まれ25歳
黒龍江大学卒業。現在、黒龍江省绥化市政策研究室に勤める。夫と绥化市に居住。



▲绥化市の有名なお寺

▲農作物の収穫風景